

## 5 セクシュアルハラスメントに関する労働相談

### 【セクシュアルハラスメント関連の職場トラブルの特徴】

セクシュアルハラスメントの相談には、上司としての優越的な地位を利用して部下に性的関係を迫ったり身体的接触行為に及ぶ、いわゆる対価型の案件がある。

会合での性的な発言・冗談及び職場での噂話等も、加害者が気付かないうちに、想像以上に、相手方や話題の対象とされた人に深いダメージを与えていることがある。

こうした結果、「眠れない」「出社しようとするが、身体が言うことをきかない」「うつ病になった」という心身不調の症状を訴える相談者も多い。また、会社側もあっせん段階に至って、初めて事実の深刻さを知り、対応に苦慮する場合が見受けられる。

労働相談情報センターでは、必要に応じ適宜「心の健康相談」も併せて実施している。

### 〈平成28年度のセクシュアルハラスメントに関する労働相談の傾向〉

- (1) セクシュアルハラスメントに関する労働相談は1,555件で、27年度より357件(29.8%)増加した(第20表)。
- (2) 男女別では、女性991件(63.7%)、男性564件(36.3%)となっている。
- (3) 労使別では、労働者1,088件(70.0%)、使用者370件(23.8%)、その他97件(6.2%)となっている。
- (4) 産業別では、「サービス業(他に分類されないもの)」711件(45.7%)、「医療、福祉」157件(10.1%)での相談割合が高くなっている(第22表)。
- (5) セクシュアルハラスメントの相談内容をさらに細分類すると、「その他」の訴えが最も多く(27年度496件→28年度869件)、次いで「対価型」の訴え(27年度216件→28年度389件)、「環境型」(27年度511件→28年度265件)となっている(第20表)。

※ セクシュアルハラスメントの相談件数は、発生の多い少ないという理由だけでなく、問題が顕在化しやすいかどうかによって左右される側面がある。女性の側に、セクシュアルハラスメント行為に対する意識が高く、かつ、申し立てしやすい環境があれば、件数は上昇する。逆に、泣き寝入りせざるを得ない状況が強ければ、労働問題として顕在化しない。また、セクシュアルハラスメントの相談は長期化する場合が多く、相談者のわずかな増加でも、相談件数に与える影響が大きい。このため、各年度の数値の比較には注意を要する。

第20表 年度別・セクシュアルハラスメント労働相談件数とその内容別件数

年 度		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
労働相談総計		52,684件 (1.0)	53,104件 (0.8)	51,960件 (△2.2)	53,019件 (2.0)
セクシュアルハラスメント 労働相談件数		1,397件 (△18.2) [2.7]	1,162件 (△16.8) [2.2]	1,198件 (3.1) [2.3]	1,555件 (29.8) [2.9]
相 談 内 容 ( 重 複 あ り )	対価型、地位利用型セクシュアルハラスメントの相談	331件	213件	216件	389件
	環境型セクシュアルハラスメントの相談	394件	256件	511件	265件
	セクシュアルハラスメントに関する人事労務管理上の相談	151件	83件	152件	63件
	その他・不明	575件	631件	496件	869件

( ) は対前年度比 (%) [ ] は構成比 (%)

第21表 規模別・セクシュアルハラスメント労働相談件数

上段：全体の相談件数

下段：セクシュアルハラスメント労働相談件数

	計	30人未満	30～99人	100～299人	300人以上	その他・不明
労働相談 総 計	53,019件 [100.0]	10,166件 [19.2]	4,525件 [8.5]	2,996件 [5.7]	8,730件 [16.5]	26,602件 [50.2]
セクシュアル ハラスメント 相談件数	1,555件 [100.0]	523件 [33.6]	102件 [6.6]	122件 [7.8]	445件 [28.6]	363件 [23.3]

[ ] は構成比 (%)

第22表 産業別・セクシュアルハラスメント労働相談件数

上段：全体の相談件数

下段：セクシュアルハラスメント労働相談件数

合 計	建設業	製造業	情報 通信業	運輸業、 郵便業	卸売業、 小売業	金融業、 保険業	不動産業、 物品賃貸業
53,019件 [100.0]	1,773件 [3.3]	3,866件 [7.3]	3,804件 [7.2]	1,742件 [3.3]	4,802件 [9.1]	1,051件 [2.0]	1,115件 [2.1]
セクシュアルハラスメント 相談件数 1,555件 [100.0]	25件 [1.6]	70件 [4.5]	150件 [9.6]	19件 [1.2]	87件 [5.6]	35件 [2.3]	3件 [0.2]
	宿泊業、飲食サービス業	教育、 学習支援	医療、 福祉	サービス業（他に分類されないもの）		その他	不 明
	2,610件 [4.9]	2,563件 [4.8]	5,725件 [10.8]	9,812件 [18.5]		2,674件 [5.0]	11,482件 [21.7]
	24件 [1.5]	48件 [3.1]	157件 [10.1]	711件 [45.7]		64件 [4.1]	162件 [10.4]

[ ] は構成比 (%)

## <セクシュアルハラスメント関連のあっせん事例>

### 【事例1】 上司からのセクシュアルハラスメント

相談者は、サービス業の会社で営業に従事していた正社員。体調不良のため休職中に上司から食事に誘われ、その後、上司の自宅に連れ込まれた。相談者は、会社に事実を伝えたが、復職が困難であると考え、退職した。

相談者は、退職後も心身が不調で就労不能であるため、加害者に慰謝料等を請求したいとして来所に至った。

センターは、会社から状況確認を行ったところ、上司は、相談者と食事をし、その後自宅に宿泊させたが、相談者から拒否する言動はなかった、また、相談者と上司はそもそも親しい関係だったなどの回答があった。これに対し、センターは、会社に対して、相談者本人からの明確な拒絶がなくとも、上司のとった行動は不適切ではないかとの助言を行った。

その後、センターが調整を行った結果、会社が解決金の支払いと上司への懲戒処分を行うことなどを内容とする合意が当事者間で成立し、解決した。